



まあ  
聞けや

依子

でも  
それだけじゃ  
だめなん  
じゃないの？

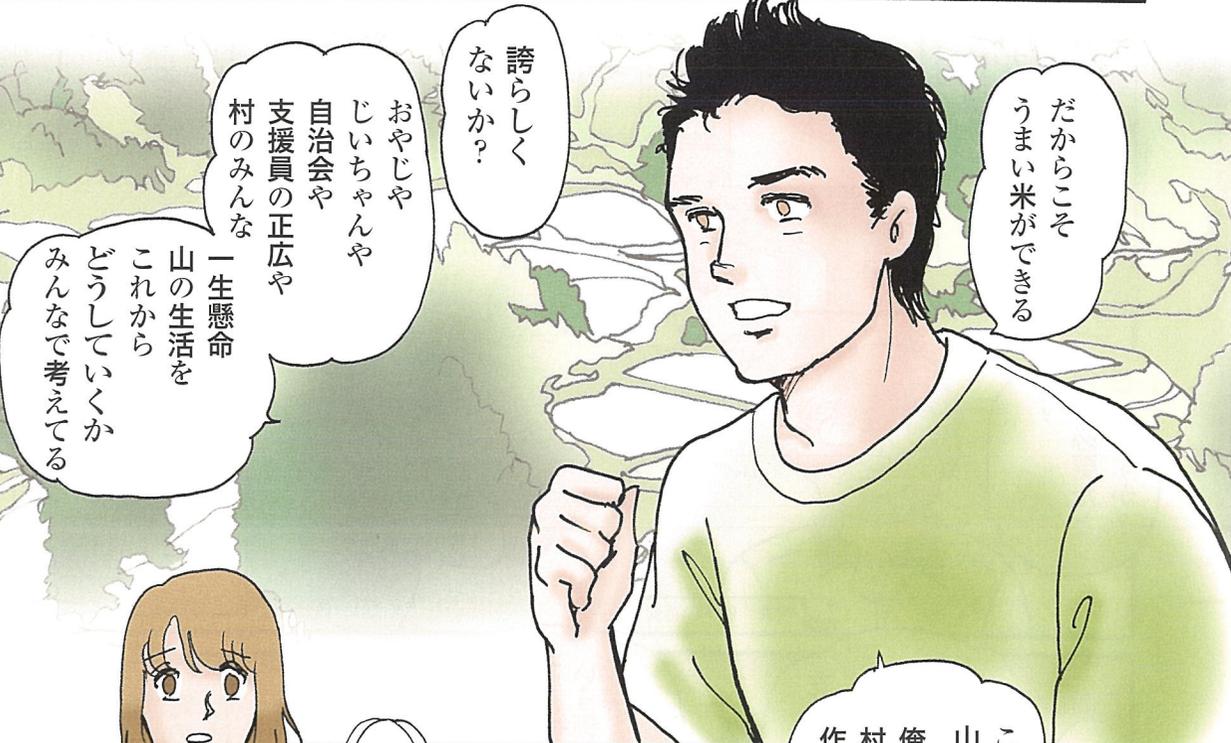
ふるさとへ  
戻って  
来ました  
元の生活が  
帰って来ました



ここからは  
山の棚田が  
よく見えるな

じいちゃんの  
そのまた  
じいちゃんや  
もつと昔から  
受け継がれてきた  
田んぼだ

機械が  
入れねえから  
何でもかんでも  
手でやる  
しかねえ

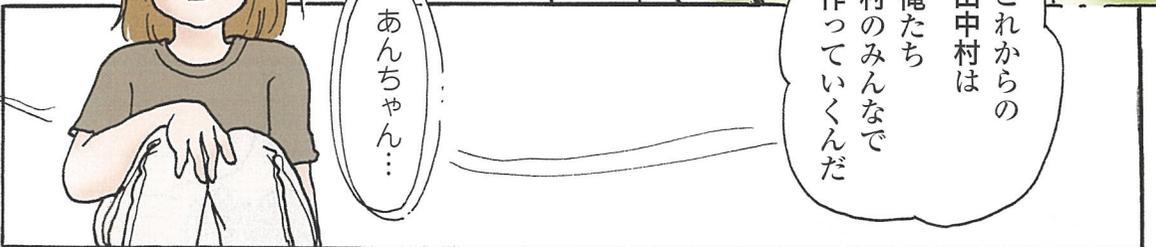


だからこそ  
うまい米ができる

誇らしく  
ないか？

おやじや  
じいちゃんや  
自治会や  
支援員の正広や  
村のみんな

一生懸命  
山の生活を  
これから  
どうしていくか  
みんなで考えてる



これからの  
山中村は  
俺たち  
村のみんな  
作っていくんだ

あんちゃん…

震災から4年目  
村の住民が帰還し  
被災した地域に新たに  
再生機構が設立され

支援員は  
新たに  
復興支援員として  
村で働くことになりました

引き続き  
お手伝いさせて  
いただきます

世話になるのは  
おめえのほうじゃ  
ねえのか



村には  
「住民会議」が  
結成され

村の人たち  
自治会  
青年団  
消防団をはじめ

社協や  
大学や  
いろんな団体を  
巻き込んで

新しい村づくりの  
ための  
話し合いが  
行われるように  
なりました

まず  
何が必要だと  
思いますか？



村長 依子の祖父

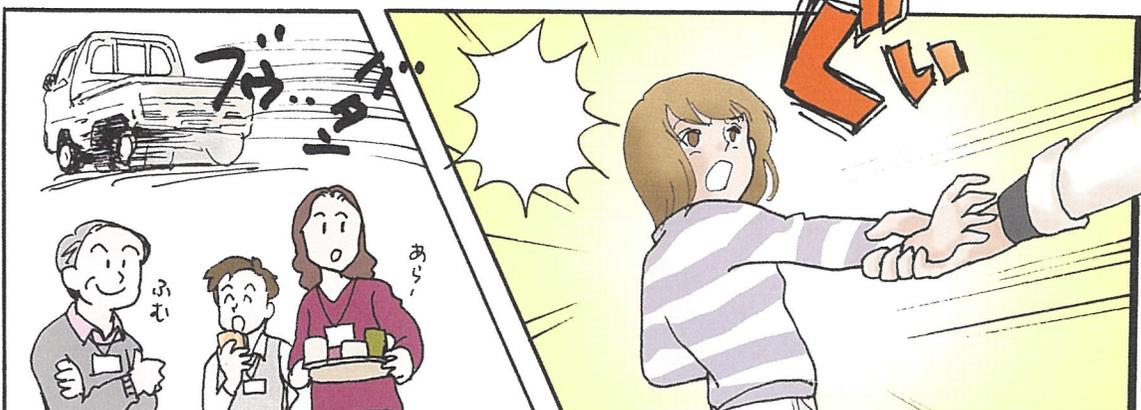
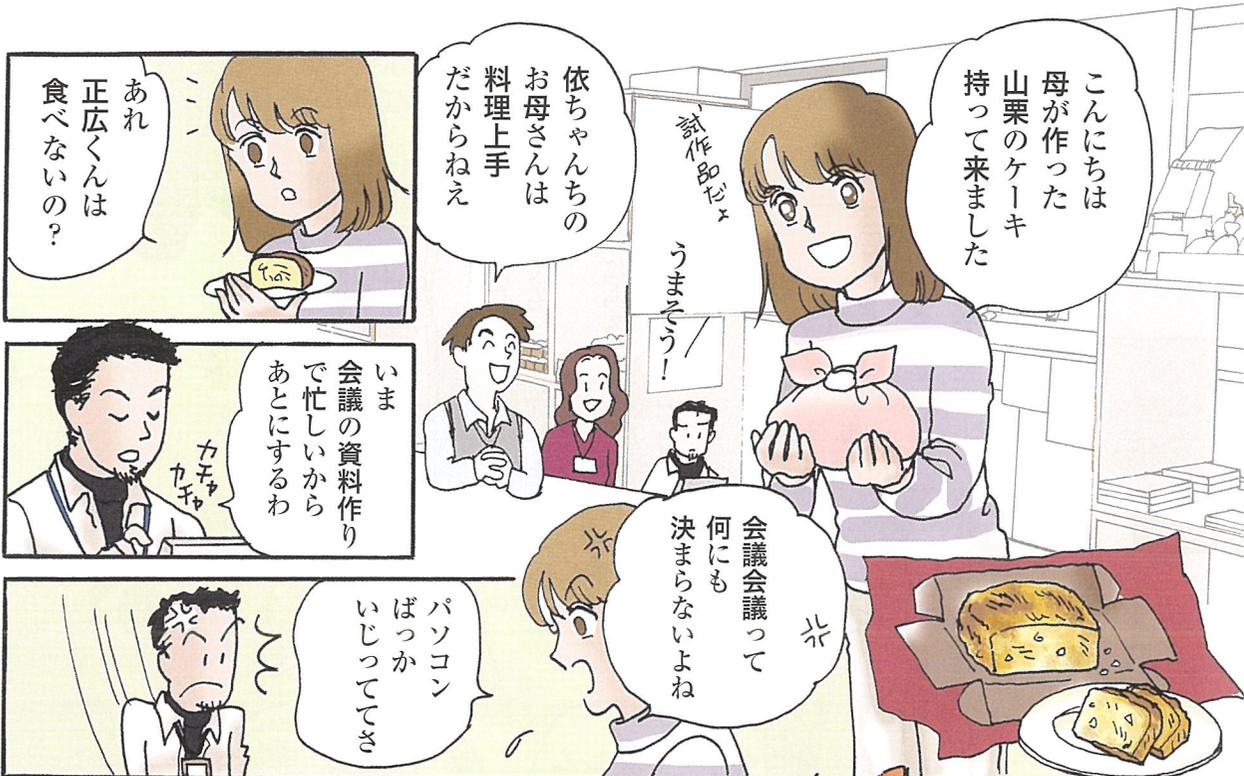
震災で  
路線バスが  
なくなって  
町の病院まで  
行けなくなった

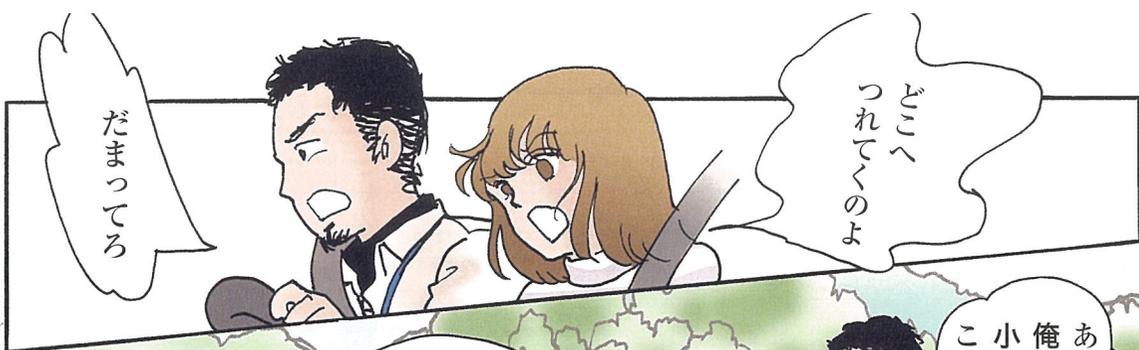
最近ではNPOで  
コミュニティ  
バスを  
運行すると  
いう例が  
ありますね

支援員の  
正広くん  
それについて  
調べてもらえ  
ないかな？

はい

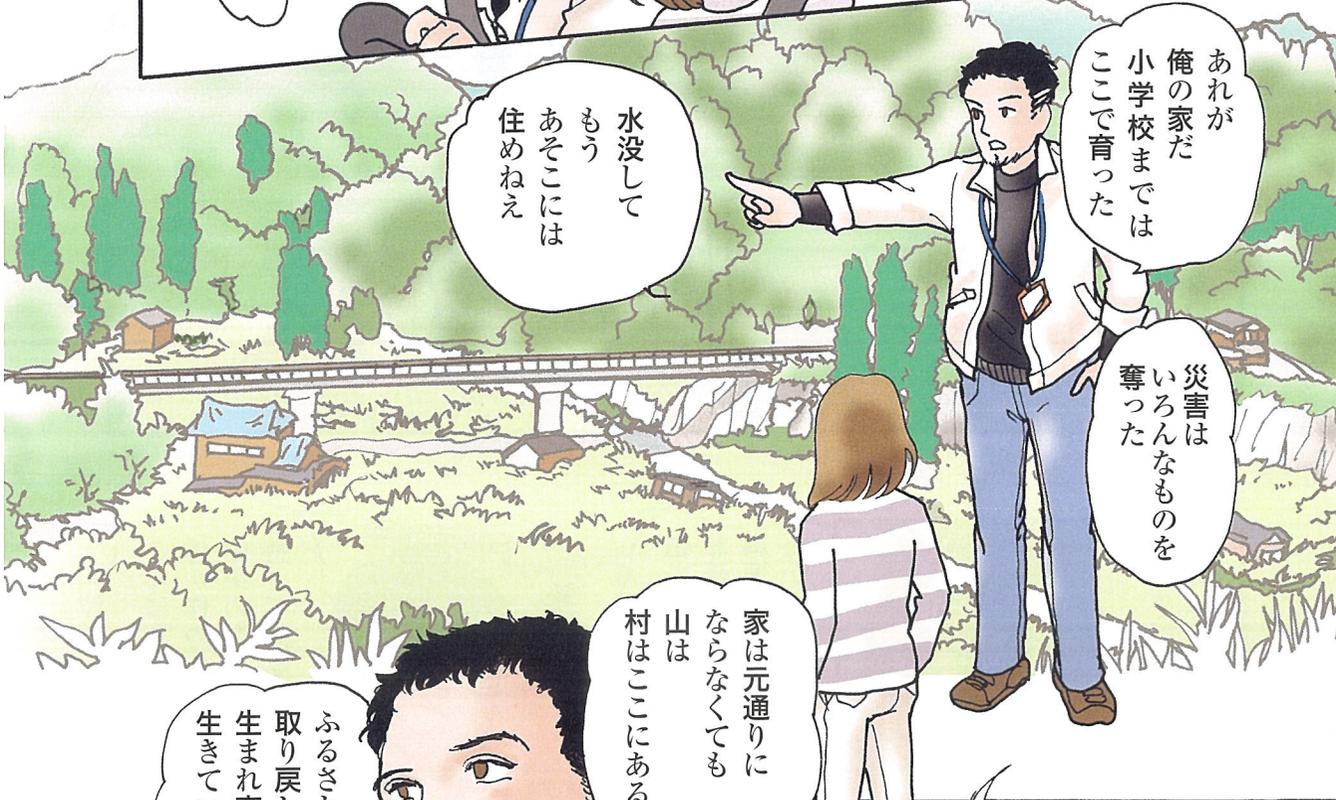






だまってろ

どこへ  
つれてくのよ



水没して  
もう  
あそこには  
住めねえ

あれが  
俺の家だ  
小学校までは  
ここで育った

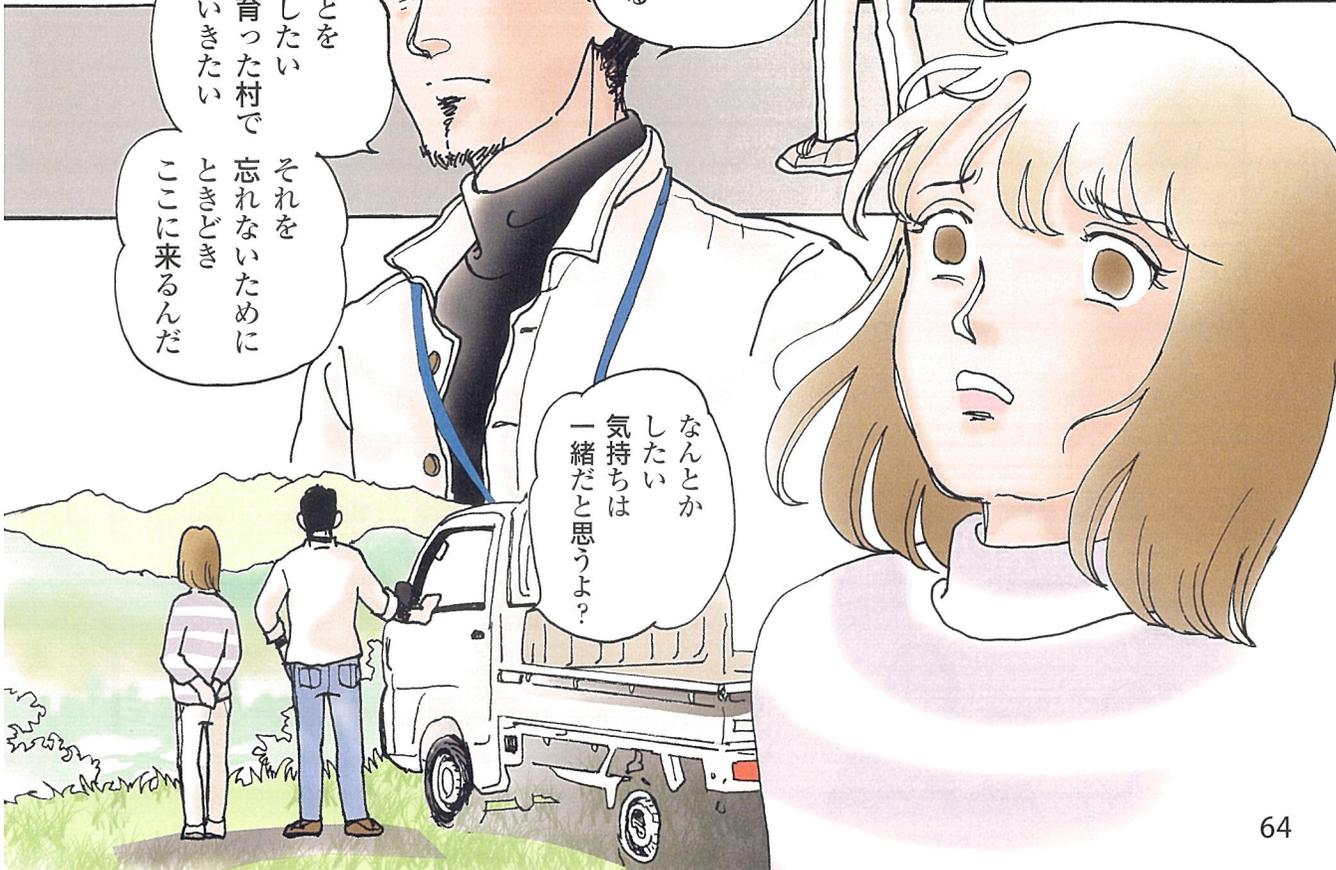
災害は  
いろんなものを  
奪った

家は元通りに  
ならなくても  
山は  
村はここにある

ふるさとを  
取り戻したい  
生まれ育った村で  
生きていきたい

それを  
忘れないために  
ときどき  
ここに来るんだ

なんとか  
したい  
気持ちは  
一緒だと思うよ？



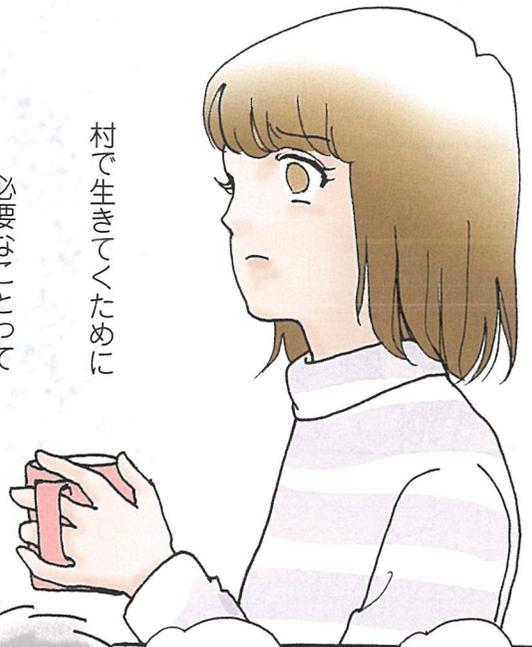


この村には  
なんにもない  
なあと思つて

依子  
なあに難しい  
顔してんだ

なんにも  
ないだつて？

村で生きてくために  
必要なことつて  
なんだろう？



この村には  
山もある

立派な  
棚田もある  
畑もある



冬は雪で  
たいへんだども  
お互いに  
手伝つて  
雪下ろしが  
できる

震災の時だつて  
みんな  
助け合つて  
乗り切つてきた  
じゃねえか

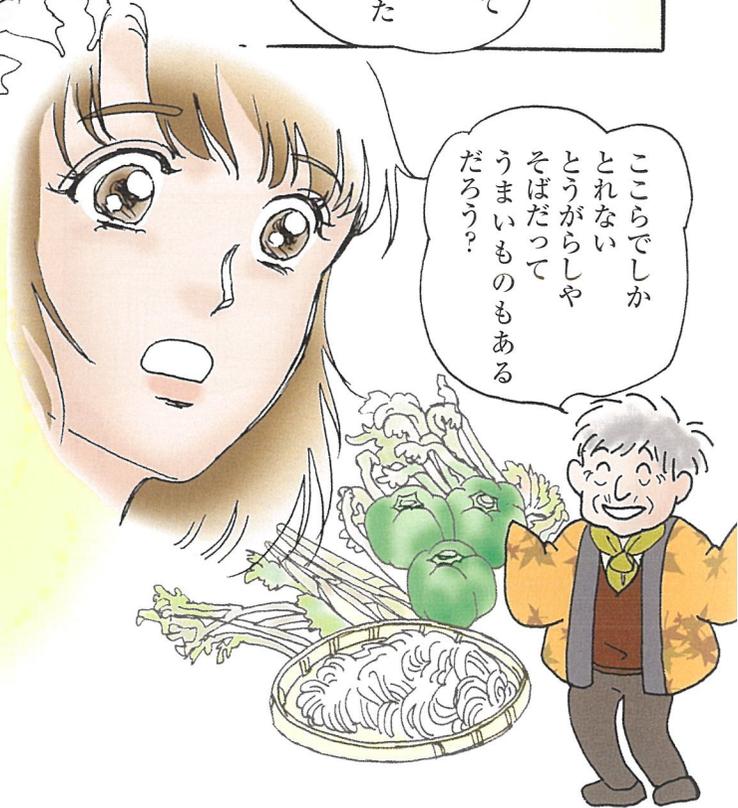


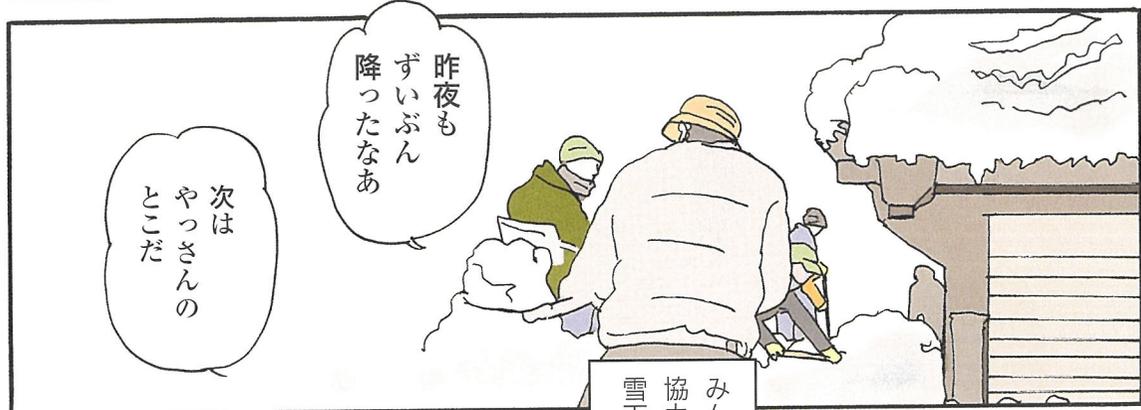
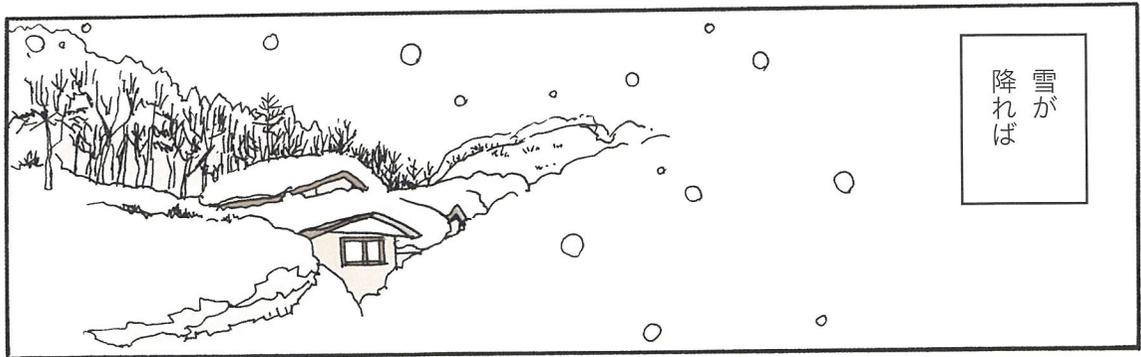
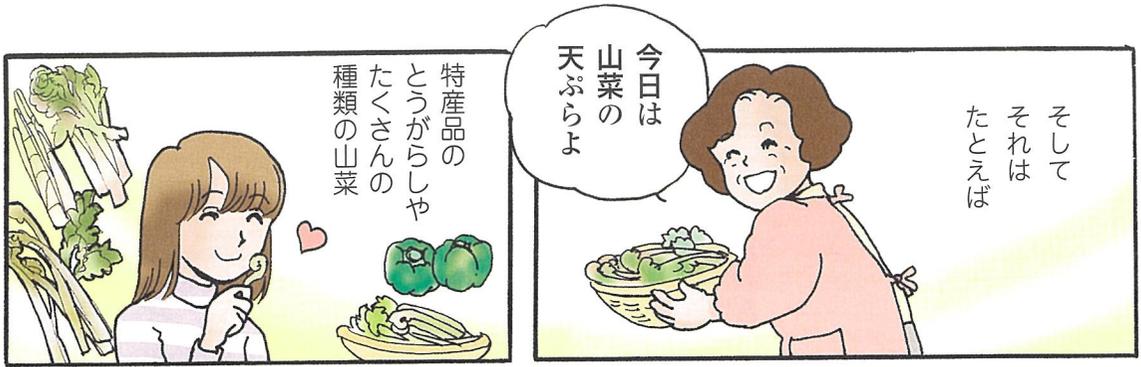
こちらでしか  
とれない  
とうがらしや  
そばだつて  
うまいものもある  
だろう？

そつが！

あれがない  
これがない  
じゃなくて

この村の  
魅力！





バスがなければ  
車に乗り合って  
協力する

一緒に  
乗せて  
よ

子どもの  
世話も  
みんなでみる



鍵も  
かけたことない  
みんな  
知り合いだから

豊かな自然  
そして  
村の人との  
絆...  
それこそが  
宝なんだ

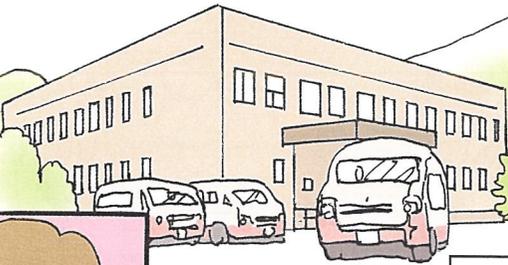


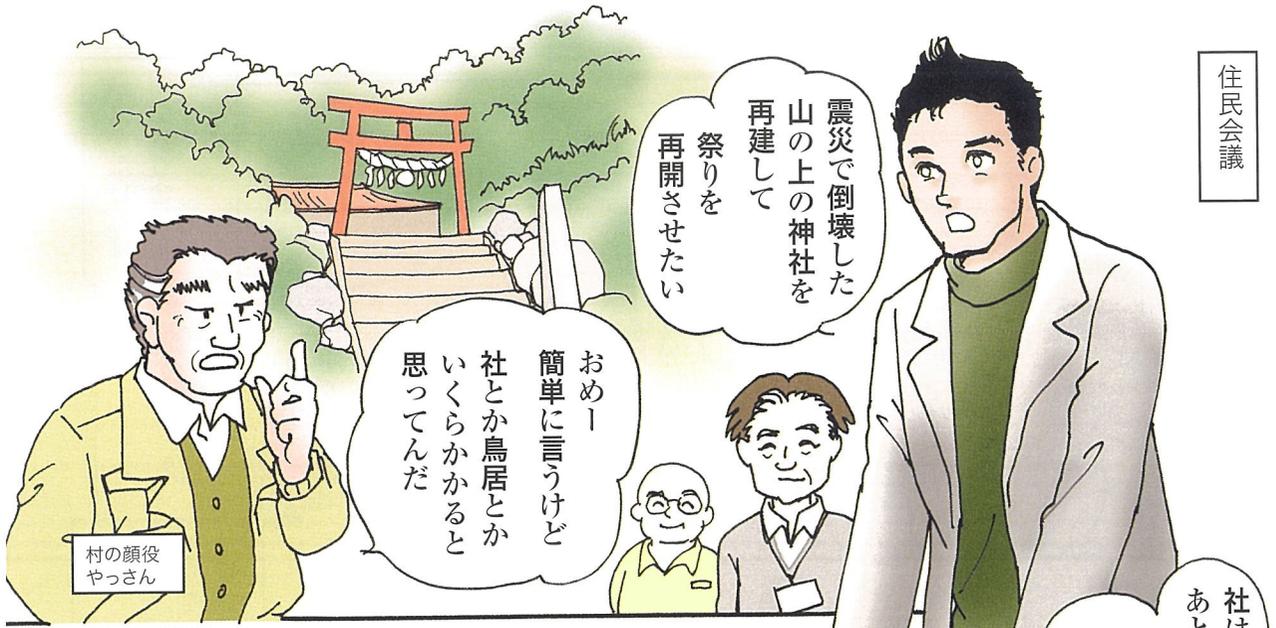
ばあちゃん  
これが回数券  
これを  
一枚ずつ  
使うんだよ



住民会議の  
成果として  
まず最初に

隣の市のバス会社に  
業務を委託して  
コミュニティバスの  
運行が  
スタートしました





震災で倒壊した  
山の上の神社を  
再建して  
祭りを  
再開させたい

おめー  
簡単に言うけど  
社とか鳥居とか  
いくらかかると  
思ってたんだ

村の顔役  
やっさん

社は  
あとでいいし  
みこしも  
大層なもの  
は  
いら  
ない  
手作り  
で作った  
って  
いい  
んだ

だ  
ども  
……  
そ  
う  
簡  
単  
に  
は

学  
校  
の  
テ  
ン  
ト  
張  
っ  
て  
店  
や  
っ  
た  
ら  
売  
れ  
る  
か  
ね  
え  
?



お  
金  
は  
復  
興  
予  
算  
か  
ら  
回  
せ  
る  
か  
も  
し  
れ  
な  
い

村  
長  
が  
そ  
う  
言  
う  
ん  
な  
ら  
……

村  
の  
み  
ん  
な  
の  
気  
持  
ち  
を  
合  
わ  
せ  
る  
に  
は  
シ  
ン  
ポ  
ル  
や  
イ  
ベ  
ン  
ト  
も  
必  
要  
だ



そ  
う  
し  
て  
手  
作  
り  
で  
祭  
り  
が  
復  
活  
し  
ま  
し  
た

山  
中  
村  
ま  
っ  
り

YAMA  
NAKA

またある時は

野菜の  
直売所を  
やりたい

うちの  
カミさんが  
村に戻っても  
ひきこもりに  
なって

人と話したり  
外へ出ることの  
きっかけに  
なれればいいんだ

お  
お  
ま  
ま  
ま  
ま

うちも  
参加したい

うちも  
野菜  
作ってるし

4世帯で  
スタートした  
無人販売所は

農産物直売所

今日は  
こんなに

こりゃあ  
店番が  
必要かも

毎朝それぞれで  
収穫して  
ラッピングし  
持ち寄って陳列して  
夕方売り上げを  
集計する

こうした毎日が  
自然と  
仲間としての  
関係が深まった  
そんな中

私  
店番  
しましょうか？

人がいることで  
客足も増え  
また  
話し相手もいる  
といふことで

直売所は  
お茶飲みの場  
になっていった  
のでした

野菜や特産品は  
時には遠く  
都会の物産展にも  
出かけて行って  
出店しました

そしてために  
村のカレーと  
唐辛子味噌を  
商品化して  
みたのです



かんのか  
こんな  
都会で

駅の売店や  
道の駅に  
おいてもらえ  
ないかねえ

村や県、  
商工会に  
ツナギを  
つけて  
もらえないか

聞いて  
みますね

道の駅！  
なんだか  
話がでかく  
なってきた  
ねえ



高齢者の  
お茶飲みや  
子育てサークルの  
活動の場として  
地区の  
集会所が開放され

おや今日は  
川上の  
ヨネさんの姿  
が  
みえないね

帰りに  
ヨネさんちに  
寄ってみるわ



そんなふう  
に  
同じ村の  
仲間であること  
で  
絆が

風邪気味  
でねえ

高齢者  
見守りにも  
つながって  
いったのでした

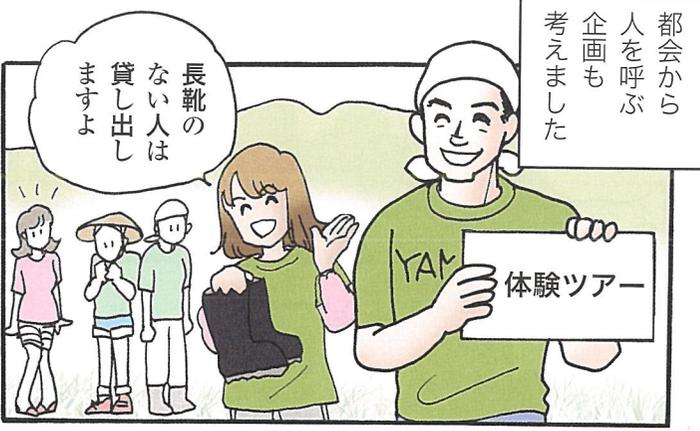


都会から  
人を呼ぶ  
企画も  
考えました

長靴の  
ない人は  
貸し出し  
ますよ

皆さんは  
近隣の農家に  
一週間滞在して  
いただきます  
民泊ですね

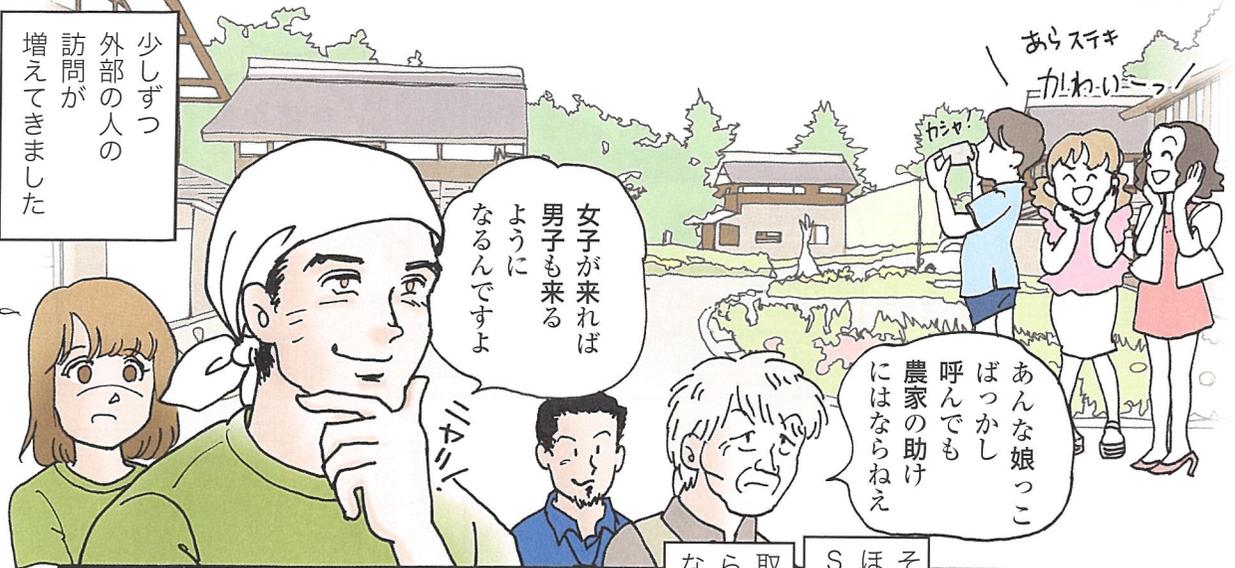
都会の若者に  
農業体験を  
してもらおう  
試みです



少しずつ  
外部の人の  
訪問が  
増えてきました

女子が来れば  
男子も来る  
ようになりますよ

あんな娘っこ  
ばっかし  
呼んでも  
農家の助け  
にはならねえ



取り上げ  
られるように  
なり

それから  
ほどんど  
SNSに

田舎暮らしを  
希望する  
人のための  
移住・定住  
セミナーも  
開かれるように  
なりました



村を離れていた  
人も少しずつ  
戻ってくる  
ようになりました



住民会議



小遣い稼いだな  
へえ

直売所で野菜を売って得たお金でばあちゃんたちが旅行に行ったそうですよ

直売所や特産加工品もそれなりに知られて来たな

まだまだ試行錯誤の日々です



家に帰ってまで会議の続きやんなくてもいいのにな

おめーはアイデアばっかしで

あれもきつと楽しいのよ

そうそう依子かあさん店長になったのよ

おばちゃんたちはとうとう定食屋をオープンしました

少しずつ確実に村は変わってきています



依子お前本当にこの場所が好きだな

ここから棚田がよく見えるから

災害があつてたいへんだったけど

いろんなことが始まったね

災害があつたからじゃない

災害の前から高齢化や過疎の問題はあつたんだ

村のみんなが一緒になって災害を乗り越え村で生活するために知恵を絞って協力したからいろんなことができるようになったんだ

この村の再生のために  
力になりたい

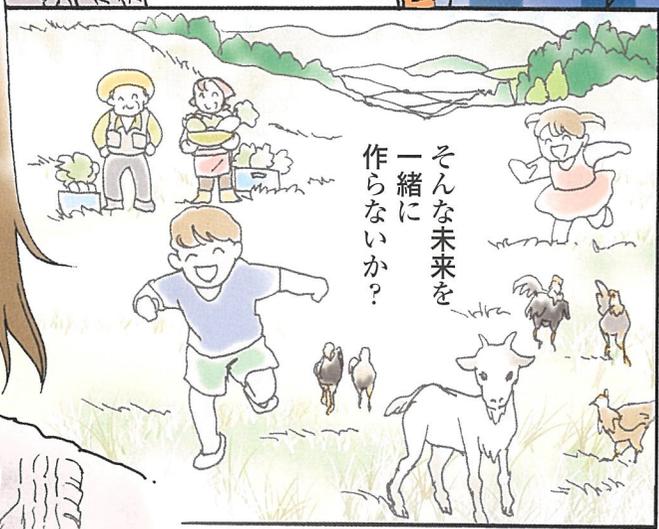
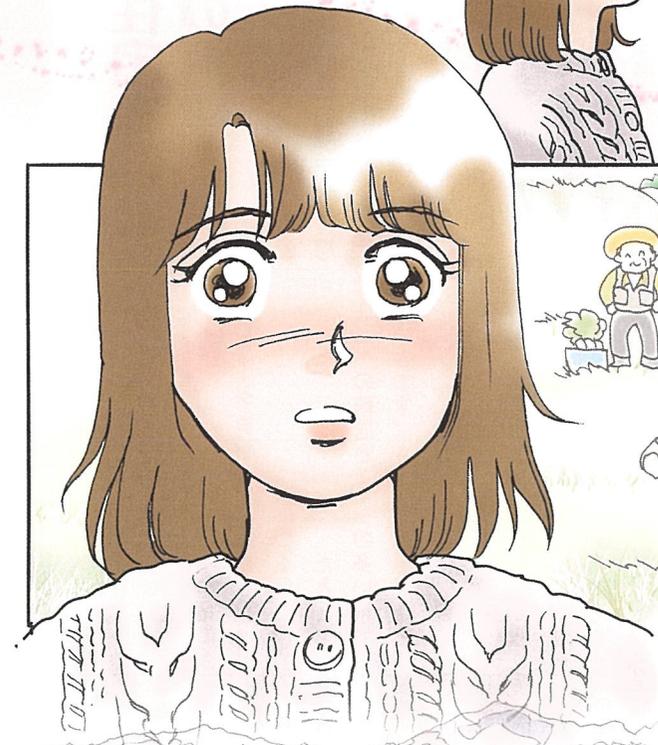
ずっと一緒に  
手伝って  
くれないか

想像してみろよ  
たくさんの  
子どもたちや  
村の人が元気に  
笑い合って  
山で暮らす日々を

そんな未来を  
一緒に  
作らないか？

暮らせたら  
いいと思わないか？

そんなふう  
ずっと  
このふるさとで



\*このマンガ制作には、長岡市社会福祉協議会 本部事務局地域福祉課長の本間和也さん、並びに公益財団法人山の暮らし再生機構 長岡地域復興支援センター山古志サテライトの井上洋さんに、ご協力をいただきました。

災害公営住宅を含む  
地域生活の再建

●大坂 純

仙台白百合女子大学教授

## ●「ありがとう」と言われる関係づくり

自力での自宅再建や、防災集団移転、災害公営住宅への転居がすすむと、被災した人たちは一般住民へと移行していきます。さまざまな体験をした人たちが、同じ地域で生活していくなかで、最初はぎくしゃくすることも少なからず起こります。

これまでの避難所や仮設住宅での不慣れた環境では、我慢を強いられ、本音を話すことができない状況がありました。SOSを発することもできずに、周囲から孤立することもあったことでしょう。また、仮設住宅を退去したあとは、新たな生活に馴染むことに必死のあまり、それまで築いた人間関係が途切れていく恐れもあります。

気持ちを話せる人、一緒に笑える人がそばにすることで、社会的孤立は防ぐことができます。さらに、自分のできる範囲で、相手や地域に役立つことを実践しましょう。一方的に「ありがとう」と言うばかりではなく、相手からも「ありがとう」と言われる関係づくりを目指したいものです。小さなことでも人の役に立つ、地域の役に立つことが、生きがいつくりやコミュニティづくりにつながっていきます。

## ●地域を面してみる視点

震災という非日常から、平時に戻していくときには、住民一人

ひとりを点で見るのではなく、地域全体で面としてとらえていく視点がたいせつです。

中越地震が発災した旧山古志村では、仮設住宅時代の支援員を、帰郷したあとも復興支援員として継続雇用し、地域でのつながりづくりを担ってもらっています。

たとえば東北では、近所でのお茶のみが盛んだった二世帯同居の多い地域でも、震災後は家の名義が息子の代に変わり、高齢者は息子たちに遠慮をして他人を家のお茶のみに誘えなくなっています。自宅に引きこもって孤立することのないように、地域の実情に合わせて集会所でのお茶のみを提案するなど、支援員が住民と住民とをつなぐ役目を担うことが求められます。仮設住宅時代に培った力を、転居先でも支援員に引き続き発揮してもらうことは、被災地での貴重な人材の活用につながります。

## ●知恵や工夫を地域で共有する

地域の課題を見つけてこれからの地域のあり方を考えるとき、解決を図るのは住民自身です。住民会議などを活用して住民の力を引き出し、地域の連帯感を深めましょう。

特に支援にあたる人は、個人の困りごとに着目するあまり、それまで近所の人がしていたおかずの差し入れやゴミ出しの手伝いなどの好意を無視して個別に調理や掃除の生活支援を行い、住民のつながりを切ってしまうおそれがあります。一人では不便な生活も、近所や友だちのささやかな支えで、地域で豊かに暮らしていくことができます。

住民それぞれがもつ生活の知恵や工夫を地域で共有することが、住みやすい地域づくりへの第一歩です。

# 日本一のまちをつくらう

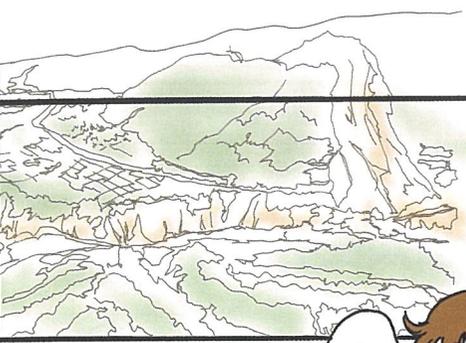
## 仮設住宅からの集団移転

画：スプラウトデザイン



突然の  
大地震で  
家や山が崩れ

体育館や  
市民センターでの  
避難生活が  
始まった



仮設住宅での  
生活がスタート  
仮設校舎での  
学校も再開した



おはよう

おはよう

なあヒロト  
知ってる？

遠くに避難した  
家族もあり  
クラスメイトは  
随分  
少なくなつた

ガ  
ヤ

ガ  
ヤ



トモちゃん家  
出ていくん  
だって

トモちゃんも  
出て行っちゃう  
んだ

そうか…

その夜

実は今度  
集団移転に向けて  
まちづくり  
会議を  
立ちあげる  
ことになって



地区会長

滝沢さん？  
ちよつといい？



カチャ  
カチャ

住んでいた  
各地区から  
代表を出す  
ことになったんだ

30代の人に  
役員をお願いして  
るんだけど  
頼めないかな？

え？

自治会の役員って  
定年退職された  
方とかが  
中心なんじゃ  
ないんですか？

それがなあ  
阪神・淡路大震災の  
あと

役員  
の  
なり手がなくて  
役員が  
高齢になって  
自治会が自然消滅  
してしまうことも  
あったらしい

20年30年後の  
まちのことを考えて  
30代の若い人に  
中心になって  
もらおうって  
ことになったんだ

うちの地区で  
30代の人  
少ないんでね

夜  
話し合いとか  
ですよー  
子ども  
1人になるし

お父さん  
やれば？

大人の話に  
口出すん  
じゃない

ボクひとり  
留守番  
できるよ

おとなりの  
みずずちゃんと  
一緒に  
留守番するよ

ははは

また返事  
聞きに  
来るよ

おい  
ま

子どもが  
勝手なコト  
言うんじや  
ない

ふあさ。

地震のあと  
お父さんは

ひとりでお酒を  
よく飲むようになった

皆さん  
お疲れ様です

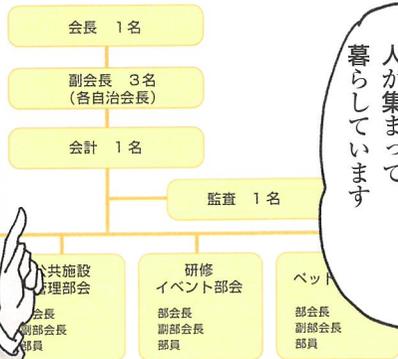
今日集まって  
もらったのは

今後の集団移転後の  
まちづくりについての  
話し合いのためです

現在この仮設住宅には  
10の地区から  
人が集まって  
暮らしています

仮設住宅自治会長

### 組織体制図



地区別に  
若い世代を中心に  
役員を選んで  
もらいました

これからの  
まちづくりの  
要になって  
もらえることも  
考えて

このたびの  
地震で  
災害区域に  
指定され

元の場所に  
住めなくなった  
人々が移転する

新しい候補地も  
話し合いの結果  
決まりました

地震で  
亡くなった方も  
帰って来られる  
新しいふる里を  
住んでよかったと  
思えるまちを  
みんなでもう一度  
つくりましょう

まずは  
まちづくり  
協議会が設立  
され

専門部会

- 検討部会
- まちなみ検討部会
- 広報部会
- まちの名称選考委員会
- 広報部会
- 研修・イベント部会
- ペットクラブ

役員会

会長  
副会長  
理事  
監事

最初に  
新しいまちに  
何を望むかが  
検討されました

広い公園が  
いくつもある  
子育て  
しやすい  
まちがいわ

各地区で  
行われていた  
祭りとかも  
再開したいね

そんなふうに  
月1回の  
話し合いから  
スタートしました



サッカーできる  
公園とか  
あったらいいのにね

危ねえ

震災前の  
地区の自治会が  
中心になって  
仮設住宅でも  
自治会が  
組織され  
草刈りや  
パトロールなどが  
行われていた



ボランティア  
グループの  
呼びかけが  
きっかけで  
クリスマス  
パーティーも  
開催され



仮設住宅の  
人々の間に  
笑顔が  
広がりました

